

会 議 記 録

会議名称		第5回（仮称）コミュニティふらっと本天沼の運営に関する地域懇談会
日時		令和6年6月17日（月） 午後1時00分 から 午後3時00分
場所		消費者センター 第1・2教室
出席者	委員名	本天沼区民集会所利用者：塩谷委員、曾山委員 天沼区民集会所利用者：佐藤委員（代理出席）、平委員 ゆうゆう天沼館利用者：本間委員 本天沼東町会：大場委員 荻窪地域区民センター協議会：杉浦委員 天沼青少年育成委員会：豊川委員（代理出席）
	オブザーバー	コミュニティふらっと本天沼運営事業者：安住氏
	事務局職員	地域施設担当課長、荻窪地域担当副参事、荻窪地域活動係長、地域施設係長、コミュニティふらっと整備担当係長、コミュニティふらっと整備担当主査、地域施設係職員1名、高齢者施策課いきがい活動支援係職員2名
傍聴者数		有 10名 無
配布資料	事前	なし
	当日	・次第 ・コミュニティふらっと本天沼 平面図 ・地域の認知度アップのための取組（コミュニティふらっと本天沼の発信力・アイデンティティー等）
会議次第		1 開会のあいさつ 2 テーマ④地域の認知度アップのための取組（コミュニティふらっと本天沼の発信力・アイデンティティー等） 3 各委員からの意見・議論 4 今後のスケジュールについて 5 閉会のあいさつ
その他		なし

## 1. 開会の挨拶

地域施設担当課長から挨拶

事務局から前回の懇談会を踏まえ検討した事項について報告

○多目的室と第5集会室について、土足禁止の運用とすることとした。

○土足禁止の部屋については、利用者の意見を聞いた上で、ジョイントマット等の購入を検討する。

- ・ジョイントマットは全面に敷くことができるのか。畳は購入せず、ジョイントマットだけを購入するのか。

⇒事務局：利用者のニーズを確認した上で、購入する数量は検討する。施設の収納が限られているため、その点も考慮する必要がある。

畳とジョイントマットどちらを購入するかは現在検討中であるが、選定する製品についてはまた報告する。

- ・ジョイントマットだと自分の団体は活動できない。畳で考えてほしい。

⇒事務局：ご意見として受け止める。

## 2. テーマ④地域の認知度アップのための取組コミュニティふらっと本天沼の発信力・アイデンティティー等

事務局から資料を基に説明

オブザーバーから既存のコミュニティふらっと（コミュニティふらっと馬橋）における地域の認知度アップのための取組について説明

○どの世代も利用できるということを知ってもらうため、子どもや若年層が参加しやすいような自主事業を積極的に実施した。

○自主事業に参加するために多世代の人がラウンジに滞在するようになり、直接的な交流はなくても、顔見知りという関係はできてきた。

○5月の多世代交流イベント（新緑祭り）では740名が来場した。現在は、イベントで町会ブースなどを設けることで地域の一体感をつくることに力を入れている。

- ・副題に「アイデンティティー」とあるが、区としてはこれをどのような意味と捉えているのか。

⇒事務局：「コミュニティふらっと本天沼らしさ」と考えている。

ただ、アイデンティティーはコミュニティふらっと本天沼を運営していく中で、後からついてくるものだと思っている。

## 4. 各委員からの意見・議論

- ・秋に青少年育成委員会のお箸づくりのイベントでコミュニティふらっと本天沼を利用する予定である。

これまで本天沼区民集会所は子どもの利用が少なかったが、青少年育成委員会のイベントの集合場所になっていた。また、コミュニティふらっと本天沼の近くにも子どもはたくさん住んでいるので、場所自体は認知されているのではないと思う。

- 地域の人に「コミュニティふらっと本天沼があってよかった」と思ってもらうためには、どのくらい地域に愛があるかがポイントである。  
ふれあい、つながりを感じられ、楽しい体験ができるようなイベントの企画、日頃の受け入れ態勢を考えてほしい。  
コミュニティは「自分が住んでいる場所」ということなので、いかにその場所に愛着をもつことができるかが大切だと思う。
- 自主団体と町会で活動している。町会としては、それほど本天沼区民集会所を利用していなかったが、自主団体では本天沼区民集会所を拠点としていたため、早くコミュニティふらっとで活動できるようになるとありがたい。本天沼区民集会所は、比較的予約が取りやすかった。住宅街にある狭い土地で、増築するとはいえ施設の面積も限られているので、どのように地域の人に施設を利用してもらえるか、考えていかなければならない。
- どんなにイベントが充実していても、周知ができていなければ誰にも届かないため、どのように周知していくかが大事。  
例えば、今後、荻窪地域区民センターの改修工事が始まるに当たり、その利用者宛てにパンフレットを配布する、また、周りの児童館・小学校にパンフレットを配布するなど、活動場所を必要としている、色々な世代の方に施設を知ってもらう仕組みを考えてほしい。  
施設に足を運んだことがない人に向けては、SNSも積極的に活用してほしい。  
地域区民センター協議会などとも連携して周知活動に力を入れるとよいのではないか。
- 今まで区民集会所として認識されていた施設を、コミュニティふらっととしてどう認識してもらうかが課題であるが、コミュニティふらっと本天沼の特徴についてもう少し議論する必要がある。  
コミュニティふらっと本天沼のスペースは限られているので、周辺の小学校や特別養護老人ホームなどと連携しながら、地域にどのように周知していくか考えていく必要がある。  
イベントは単に区が主催するのではなく、施設を利用している団体などの協力も得ると周知が進んでいくのではないか。
- 周知したとしても、「楽しい、行くと得する」と思ってもらえないと人は集まらない。学習支援などもその一つである。

「学習指導要領に沿って教える必要がある」という意見もあるが、知識のある大人や高齢者が、柔軟に、楽しく子どもに教えるのがいいのではないか。

フリーマーケットのニーズは高いので、阿佐谷の交友会のようなフリーマーケットを毎月実施してはどうか。

コミュニティふらっと本天沼は土地の広さはないが、「来たら楽しい」ものを毎月実施することで利用者が定着する。コンサートでも良い。発表の場を設けることに加え、子どもたちが体験できる場をつくる。

コミュニティふらっと本天沼がどう「楽しいこと」を提供できるかを考えると良い。

「得」という観点では、火起こし、水の浄化、非常用トイレの使い方など、災害対策として役立つものがベースになるイベントを毎月実施するのもよいのではないか。

場合によっては、囲碁将棋や麻雀の体験でも良い。色々なことが考えられる。

⇒委員：荻窪地域区民センター協議会で荻窪音楽祭をやっており、ヒップホップダンスなどをしている。本天沼区民集会所でもダンスの発表会をしていたので、コミュニティふらっと本天沼でもできるとよい。

- コロナ禍に合唱団で活動するために本天沼区民集会所を利用していた。多目的室は、東原くらいの大きさがあるとありがたかった。

公共の施設は、地域の人たちのための利用という側面と、広い範囲で活動している団体の活動場所としての側面がある。杉並区は広い部屋が少ないため、後者の点では弱い。

特にコミュニティふらっと本天沼は狭く、住宅街である。アピールポイントとしては、集会室が1部屋増えたことと多目的室ができたこと程度である。具体的に施設でどんなことができるのかを周知していかないと、利用者はイメージがわからない。

- 土足禁止の部屋ができるのはありがたい。

コミュニティふらっと本天沼を運営するにあたっては、地域への愛が大切だと思う。狭く、アクセスもよくないため、地域に特化した施設として運営するのが方向性としては良いと思う。

今まで区民集会所やゆうゆう館を利用していた人と、これまでほとんど施設を利用していなかった子どもと、双方にとって利用しやすい施設になるとよい。近隣の小・中学校と連携して、例えば子どもと高齢者が一緒に川柳を作って発表する、百人一首をする、など地域に特化した取組をするとよい。

- 居室に設置する椅子や机は定員分しか用意しないのか。

⇒事務局：基本は定員分しか確保していない。

- 机を片付ければ定員は増やしても良いということか。

⇒事務局：利用種目を踏まえて定員を設定している。

- 定員は目安であるか。多少は定員を超えてもよいのか。  
⇒事務局：定員は目安である。
  - 区としては、定員を超えて利用しても良いという判断をするということか。  
⇒事務局：良いということではないが、イベント等で多少定員を超えたとしても、絶対に人が入れないということではない。
  - 定員を超えて利用した場合に、それ以降の施設の利用が制限されるということはあるのか。  
⇒事務局：そのような仕組みはない。
  - これまで本天沼区民集会所で行っていなかった試みを実施し、かつ子どもたちにボランティアとして来てもらうには、それなりの熱量をもって取り組む必要がある。  
⇒事務局：中高校生等のボランティアについては、あくまでコミュニティふらっと本天沼の認知度アップのための取組の1例として記載しているが、既存のコミュニティふらっとでは、「自分の役割をもってイベントに参加したい」と思っている中高校生がボランティアとして来ている例がある。それを子どもの意欲につなげていけると良いと思う。
  - ボランティアを集める場合の報酬は無償なのか。区が予算を計上するべきではないか。
  - ボランティアを集める場合には、リスクヘッジが必要。ボランティア保険などは区が入るべきではないか。  
⇒事務局：ご意見として受け止める。
  - 受託事業者として、既に認知度アップのための企画をしているのであれば教えてほしい。  
⇒オブザーバー：ラウンジ利用に子育て支援を入れていきたい。大学生にボランティアをお願いして、学習支援を含む社会教育の実施を考えている。希望者が多ければ集会室を利用しての自主事業に組み替えることも考えている。  
ボランティアに関する保険についてはイベント・自主事業双方で入っているので、対応していく。  
小学校とも連携していく。
- 傍聴者意見
- 土足禁止の部屋を設けるとのことだが、大人数が集まるイベントの際靴は全て下駄箱に入れるのか。  
⇒事務局：他の施設と同様、靴袋を配ることを想定している。
  - 多目的室の扉は一つしかないが、非常時の避難は問題なくできるか。

⇒事務局：消防署にも問題がないことを確認済であるが、避難計画を作成した上で訓練をしていく。

- 地域住民の意見を聞いてもらえる機会はあるのか。

⇒事務局：まさにこの懇談会では委員の方や傍聴者の方から意見を伺っている。また、地域課にご連絡いただければご意見を承る。

- 子どもや高齢者に関する話が多く出ていたが、40～50代の人もイベントに参加できるとよい。

⇒事務局：その視点で考えている。

5. 今後のスケジュールについて  
事務局から資料を基に説明

6. 閉会のあいさつ

地域施設担当課長より挨拶

- 挨拶内で「軽々には（懇談会の内容を自主運営事業として）受けない」と発言したことについて、「懇談会で出た提案を事業化しないということか」と委員から質問があった。質問に対し、「実現化するとしても初年度すぐには難しいため、そうした趣旨で発言をした、言葉足らずだった」と回答した。